附属支部

１　はじめに

Ｉｏ Ｔ型未来社会においては情報活用能力の育成が求められており、文部科学省では、ＩＣＴを活用した新たな学びを実現するための教育実践として、一人一台タブレット端末の重要性を訴えている（平成 27 年 12 月 21 日中央教育審議会答申）。附属中学校では、現在、タブレット端末として iPad(第１世代を含め)130 台を所持しており、いくつかの教科で先行して一人一台のタブレット端末での授業を実践している。ここでは、附属中学校の取組について紹介する。

２　附属中学校でのＩＣＴ環境と授業実践

（１）無線ＬＡＮ環境の充実

本校ではタブレット端末 40 台が同時に送受信できるルータを３台所持しており､使用する教室に持ち運んで、学級の生徒全員がタブレット端末を利用した学習が可能である。さらに令和２年１月には、全ての普通教室で無線ＬＡＮが使えるようルータを設置する予定である。

（２）タブレット端末の活用

本校では、タブレット端末と授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」(以下、ロイロノート）を活用し、深い学びの実現に向け授業実践を行った。その中でも、特に教育効果の高かったものを紹介する。

①　教員の資料提示と情報共有

生徒に提示する資料を授業の展開に合わせてロイロノートで準備しておくことで、授業をスムーズに展開することができた。資料作成では、以前に PowerPoint などで作成した資料もロイロノートに取り込むことができ、一度準備をしておけば、他クラスや他の教員間で共有ができることから、授業準備の負担削減につながった。

②　個人（グループ）の意見の集約や、全体での共有

ロイロノートでは、資料の配付や共有方法が分かりやすく、生徒が見通しをもって学習活動に取り組むことができる。生徒の考えやデータなどを即時に視覚的に共有することで、他者と協働してよりよいアイデアを創り上げることができ､新しい価値を見いだすことにつながった。

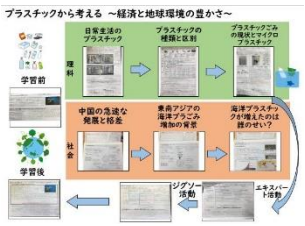
③　学習者が主体的に考え、議論する授業

ロイロノートは､「カードを作る」「カードをつなぐ」「プレゼン完成」の簡単なメニュー操作で考えを整理し、他者に分かりやすく伝えることができる（写真１）。授業の発表や議論の中で、コミュニケーション力や論理的思考力、プレゼンテーション能力を高めることができ、継続して行うことで、自分の考えを説明することに苦手意識を持っていた生徒も、そのよさを実感していた。

【写真1　タブレット端末を使ったプレゼン】

④　生徒の学びが蓄積されたポートフォリオの作成

生徒は個人ＩＤを所持し、授業中の発表やプレゼンテーションの資料、実験動画、振り返りなど、授業のすべてのデータがクラウド上に蓄積され個人のポートフォリオができる。教科横断的な学習においては、ＬＯＰＰ（LoiLo Note One Page Portfolio)を作成し、自分の考えを伝える場面や考えを再確認する場面、まとめる場面で頻繁に活用する姿が見られた（写真２）。



【写真2　生徒の作成したLOPP】

３　おわりに

ＩＣＴを効果的に活用する方法を考え実践していくことは、生徒の学びを充実したものにする手助けとなった。今後は、家庭での活用の仕方も含め、ＩＣＴの効果的な活用方法について研究し、実践を重ねていきたい。